

行政視察 慶 野 常 夫 議員

日時: 令和6年7月31日(水)～8月2日(金)

場所: 山口県山口市、山口県光市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野新都市BT～羽田空港第2ターミナル	バス	往					3,900	3,900
羽田空港～山口宇部空港	飛行機	往				50,970		50,970
山口宇部空港～山口市役所前	バス	往					1,580	1,580
山口市役所前～NTT山口前	バス	往					220	220
NTT山口前～大歳	バス	往					210	210
大歳～光	鉄道	往	65.8	1,170				1,170
光駅～光市役所前	バス	往復					500	500
光～新山口	鉄道	往	58.5	990				990
新山口駅～NTT山口前	バス	往復					1,060	1,060
新山口駅北口～山口宇部空港	バス	復					910	910
山口宇部空港～羽田空港	飛行機	復				40,630		40,630
羽田空港第1ターミナル～佐野新都市BT	バス	復					3,900	3,900
計				2,160	0	91,600	12,280	106,040

宿泊料@16,500×2泊 33,000 円

交通費 106,040 円

(うち航空運賃 91,600 円)

計 139,040 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 岩上 裕一

令和6年9月2日

佐野市議会議長 川嶋 嘉一 様

政友みらい 行政視察報告

議員名 慶野 常夫

1, 期日：令和6年7月31日（水）～8月2日（金）（2泊3日）

2, 視察地及び視察事項

- （1）山口県山口市「山口市農山村地域活性化ビジネス支援事業」について（7月31日）
- （2）山口県光市「ペット同行避難所」について（8月1日）

3, 参加議員

小暮博志、山菅直己、川嶋嘉一、慶野常夫、神宮次秀樹、菰原政夫、長浜成仁

4, 視察報告

（1）山口市「山口市農山村地域活性化ビジネス支援事業」について

①山口市の概要（※頂いた資料を基に記入）

- ・人口：193,966人（令和2年国勢調査、令和2年10月1日）
- ・面積：1,023.23km²
- ・議員定数：34人（現員31人）
- ・議員報酬：449,000円（月額）
- ・政務活動費：会派所属議員数×360,000円（年額）

・山口市は、山口県の中央部に位置し、南は瀬戸内海に面し、東は防府市、周南市、西は美祢市、宇部市、北は萩市、さらには鳥根県津和野町、吉賀町に接している。交通の便がよいことから、県内の主要な都市に1時間以内で移動できるとともに、高速自動車道や山陽新幹線、山口宇部空港といった高速交通網との接続により、広域交流の拠点としての優位性を有している。また、平成の大合併により、県央中核都市の実現を目指し、平成17年10月1日に近隣4町（小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町）と新設合併し、さらに、30万人規模の人口とバランスのとれた産業構造を有する「広域県央都市」の創造に向け、平成22年1月16日に阿東町を編入合併し、人口総数19万8,727人、市域面積1,023.23km²の新たな山口市が誕生した。

②視察内容

山口市は新市発足以降のまちづくりとして、県都山口の発展に向けて進めてきた都市政策の2つの柱である「個性と安心の21地域づくり」と「広域県央中核都市づくり」の取組を一体的に推進し、更なる価値創造や経済循環を図る好影響・好循環の対流型のまちづくりを進めることで、農山村も都市も共存共栄し、全ての地域において、安心して住み続けられるまちづくりを進めている。そのような中で第

二次山口市総合計画後期基本計画（令和５年度～令和９年度）の６つの重点プロジェクトの４つ目に「２１地域づくりと農山村活性化」がある。

農山村活性化に向けた取組の方向性等としては、農山村エリア（９地域）の地域経済活性化、移住定住促進の強化などが挙げられている。山口市内の農山村エリアにおいては、人口減少や大都市圏への転出超過、少子高齢化の進展が続いており、こうした諸課題に対応し、地域課題の解決と地域の活性化に取り組む必要がある。農山村エリアには、人材や農林水産物、自然環境等の優れた地域資源が多くみられることから、その地域資源を活用し、潜在的な地域の強みを活かしたビジネスを展開することで、地域内外の経済の好循環を生み出す可能性を有している。先述の地域資源を活用し、雇用の創出や地域経済の波及効果の創出、地域課題の解決などの地域の活性化につながる事業を応援するものが「山口市農山村地域活性化ビジネス支援事業」である。

当視察は、入江幸江市議会議長の冒頭挨拶の後に担当職員の方より事業の成り立ちや補助対象事業の要件、補助対象経費等の詳細説明があり、その後、活発な質疑応答が行われた。

（２）光市「ペット同行避難所」について

①光市の概要（※頂いた資料等を基に記入）

- ・人口：４８，５９４人（令和６年３月３１日住民基本台帳）
- ・面積：９２．１３㎢
- ・議員定数：１８人
- ・議員報酬：３７０，０００円（月額）
- ・政務活動費：各月１日における当該会派の所属議員数に月額２万円を乗じて得た額を半期ごとに交付

・光市は、山口県の東南部、周南工業地帯の東部に位置し、東側に田布施町、北側に周南市、西側に下松市に隣接している。市域の北西部には島田川、北東部には田布施川が流れており、両河川を中心にまとまった平地が広がっている。両河川の上流部に田園地域が広がる一方、島田川下流部を中心とした瀬戸内海沿岸や岩田駅周辺には市街地が形成されている。瀬戸内の温暖な気候や豊かな自然環境に恵まれており、白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸や象鼻ヶ岬など風光明媚な海岸部は、瀬戸内海国立公園に、青々とした森の石城山を中心とした山間部は、石城山県立自然公園にそれぞれ指定されている。平成１６年に、歴史的、地理的につながりの深かった旧光市と旧大和町が合併し、新しい「光市」が誕生した。

②視察内容

今回は、光市役所防災庁舎（光市防災指令拠点施設）にて担当職員の方より詳細説明を受けた後に、実際にペット同行避難所（テクノキャンパス研修センター）を視察した。「同行避難」とは、ペットと一緒に避難することであり、飼い主とペットが同じ空間で避難生活を送る「同伴避難」とは異なるため、注意が必要である。

光市は、ペットを飼っている市民が躊躇することなく避難行動を取れるようにするとともに、ペットのいる避難者とそうでない避難者、双方が干渉し合うことのない避難所生活を送ることができるよう、ペットの飼育管理は原則として飼い主の責任で行うことを前提にペットの同行避難に対応できる専用の避難所を１か所開設している。

経緯であるが、ペットは家族の一員であるという意識が浸透しつつある一方で、過去の災害ではペットを残して避難できないといったペットが障壁になることや、いったん避難した飼い主がペットを避難させるために自宅に戻り災害に巻き込まれたケースなどが報告されており、また、ペットのいる避難者とそうでない避難者が同じ避難所で生活すると、鳴き声や臭い、アレルギー問題など、ペットと人が一緒に避難することで生じる多くの課題が指摘されてきた。そのため、平成30年7月豪雨による災害を教訓とし、より多くの市民が安心して避難できる環境整備の一環として、避難所でのペットの受け入れについて検討を行い、令和3年度に通常の避難所とは独立した専用のペット同行避難所として光テクノキャンパス研修センターを避難所とするとともに、隣接する公園にゲージを置くためのユニットハウス3棟を整備した。

担当職員の方より先述の経緯の他、市内動物病院との協定やペットの管理、事業費等の詳細説明があり、その後、活発な質疑応答が行われた。その後移動して実際のペット同行避難所を視察した。今回詳細説明を受けた会場は、令和6年3月25日に運用が開始された光市防災庁舎（光市防災指令拠点施設）であったため、防災庁舎整備事業についても合わせて説明を受けることができた。

・ 山口県山口市での行政視察の様子



・ 山口県光市での行政視察の様子



5. 所感

(1) 山口県山口市「山口市農山村地域活性化ビジネス支援事業」について

山口市は過疎地域と県中山間地域と同程度の人口減少が進んでいる地域のエリア、そして21の地域が農山村エリアとなっており、山口市は新山口駅が都市拠点エリアと市役所周辺のエリアがあり2つの都市エリアがあります。そこで21の地域づくりと農山村活性化の取り組みとして農山村エリアの9地域を位置付け、地域経済や移住の促進をしっかりと取り組んでいました。

本市においても人口減少や若者の大都市圏への転出超過に伴う農村地域の過疎化などにより、ますます高齢化が進んで行くことから農業・農村の活性化を進める必要性を強く感じました。

(2) 山口県光市「ペット同行避難所」について

光市では災害時にペットを連れた市民が利用できる専用の避難所を開設しました。これまでも指定避難所にペットを連れて行くことはできたが、避難場所は屋外で、受け入れ実績はない状況でした。専用避難所の開設で、周囲に気兼ねすることなくペットと避難できるようになったことによりペットを飼っている市民の方々が躊躇することなく避難行動をとれるようになり大変良かったと思います。本市においてもペット同行避難所ができるように取り組んでまいります。